

Information & HIROBA

各地の活動レポート

●生活環境を整え心の育成に
山陰本部(事務局・山陰合同銀行)
は、小学校での紙芝居上演等、子どもたちの豊かな心を育む様々な独自



電子レンジを寄贈した光徳子供学園(鳥取県)



宇和中学校の水やりの様子

の活動を行っています。

その活動の一つ「子ども支援運動」は、生活環境を快適にすることも心の育成には重要と、山陰両県の児童養護施設へ物品寄贈を行っています。昨年度は電子レンジ、電波時計、電気あんな、半纏等、要望のあった品を寄贈し、施設関係者からは、「子どもたちを応援し見守っている方の存在を感じることは、自立への励みになる」と大変喜ばれました。

●コスモスの花が地域を癒やす

愛媛県本部(事務局・伊予銀行)が主催する、「第27回愛媛・コスモスの花・コンクール」の各賞が決定し、最高賞「グリーンコスモス大賞」に西予市立明浜中学校と宇和中学校が輝きました。

昨年7月の豪雨災害の影響を受け、

大幅に作業が遅れてしまいましたが、夏の猛暑にも負けず一生懸命水やり等の世話を続けた結果、秋には見事にきれいなコスモスを開花させることができました。生徒が一丸となって育てたコスモスは、豪雨により苦労をした地域住民の目を楽しませました

●利用者の暮らしを快適に

静岡県本部(事務局・静岡総合サービス(株))では、独自の取り組みとして車いすや医療機器等の寄贈を行う「福祉施設支援事業」を毎年実施しています。この活動は、物品の寄贈だけでなくとどまらず、施設利用者や介護者の要望を聞き、車いすの清掃や施設内の花壇の手入れ、窓ふきなどのボランティアも行うことが特徴です。

昨年は、33施設での活動に517名の会員や地域団体が参加。家族連



子どもたちも窓ふきをお手伝い



●あいきが福井の子どもたち

昨年度、作文コンクールの応募数が全国一位となった福井県本部(事務局・福井放送)。子どもたちの感動が詰まった作文は、FBCラジオで放送された他、作品集となって発刊されています。(1冊500円・問合せは福井県本部 TEL:0776-571100)まで)

また、同時に開催している標語コンクールの県知事賞の作品は、今年度の同県本部の活動をPRするポスターに掲載され、関係各所に配布されました。

あいさつ運動活動報告

●中学生はお手本です

栃木市立都賀中学校では、小中一貫教育事業の一環として、小学校と

お知らせ

●「小さな親切」実行章・団体会員バッジを改定

4月1日より「小さな親切」実行章および団体会員の子ども用バッジを取りやめ、大人用バッジのデザインに統一。バッジは一種類になります。会員並びに関係者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

●当選者発表

本誌新春号(No.513)の読者プレゼント「はとバス限定コスチュームキュービー」の当選者は次の通りです。ご応募ありがとうございました。

愛媛県 脇田明美/宮崎県 若本由美子

●寄附者ご芳名
(2019年1月~3月末/順不同、敬称略)
青森県 似鳥初彦/静岡県 中川根語り部の会/山口県 福増満/天野洋子/山口県/フィナンシャルグループ

「おとなの作文」

人はいくつになっても 出会いによって 変わるもの

東京都 高橋 誠

学生時代、体育会系の部活で過ごした私は、礼儀礼節は重んじ、自分では優しい方ではないかと思っていたが、残念ながらそれは独りよがりの考えで、他人には無関心であった。いや照れ臭かったのかもしれない。

4年前、長年勤務した会社を定年退職し、関連会社で働くことになった。たまたま、その社長が少年期より「小さな親切」運動の活動に取り組んでいる人だった。毎日のように「小さな親切」の話を開かされ、申し訳ないが仕事が忙しいときは「うざったい」と思った時もあった。

しかしながら不思議なもので、「五月雨が岩をも通す」とでもいうのか、社長と毎日顔を合わせ、また、「小さな親切」運動本部が発行している作文コンクールの作品集を読んだりしているうちに、私の石頭にも知らないうちに、いつのまにか「小さな親切」の精神が潜在意識に到達しているようになっていた。

今では、外出時、電車やバスで、お年寄りやお身体の不自由な方、小さなお子さん連れの方を見ると、「この方のために自分が今、して差し上げることは何かないか?」と考えている。そして、すべきことがあると思うと、何のためらいもなくすぐに行動に出てしまう。まさか、還暦を過ぎた人間がこんなにも行動力が向上すると思わなかった。人はいくつになっても変われるというけれど、嘘じゃなかった。

自分一人では、たいしたことは学べない。人は出会いによって、自分にないものを学ぶことができるもの。それを成長というのかもしれない。

口先だけの優しさで、行動力が無かった自分を、照れもなく自然に体が動いてしまうほど行動的にしていただいた社長本人にはもちろんのこと、そんな人に出会ったことに心から感謝している。

これからも、身近なところで日々親切を実践することで、さらに精進していきたい。



ハイタッチしながら笑顔であいさつ

合同のあいさつ運動を実施。中学生のあいさつは良いお手本となり、小学生たちも徐々に元気なあいさつができるようになりました。地域の方からは「道で会うと大きな声であいさつしてくれるので、とても気持ちがいい」とお褒めの言葉も。昨年からは、笑顔が増えるよう、ハイタッチをしながらあいさつをしています。今後、先輩から受け継いだ元気があいつで、学校や地域を盛り上げてくれることでしょうか。